



◆発行者

福島区医師会在宅医療・
介護連携相談支援室
責任者：塚本 雅子

080-8337-3960 月～水

080-8535-5344 木

080-8337-3959 金

E-mail : fukushima.zaitaku@gmail.com

「命を守る」
「細くてもつながり続ける」

福島区相談支援室

検索

★福島区医師会在宅医療・介護連携相談支援室は、令和3年度4月から新たにコーディネーターを1名
迎え、関係医療機関・各事業所の皆様に安心してご相談いただけるよう体制を整えています。
今回、活動内容の一部をご紹介します。

1 「福島区の在宅医療を考える会世話人会」参加レポート

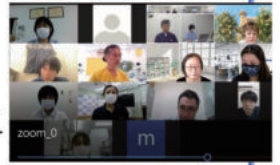
●昨年から現在かけて新型コロナウイルス(Covid-19)の感染拡大から、計画していた講演会・研修会が中止となり、
今後の「在宅医療を考える会」の活動を検討するため、オンラインでのグループワークとして、今年8月19日14:00～
15:30「福島区の在宅医療を考える会世話人会」が開催されました。(参加人数:19名)

●地域の現状把握と課題を検討しました。

抽出された課題:「発熱外来システムについて」「コロナ禍の認知症対策」

「0410対応、オーラルフレイル等情報発信の必要性について」

今後、上記対策について話し合う予定です。



【福島区の在宅医療を考える会】とは…2007年に発足し、住民が福島区に住んでいてよかったと思える街づくりをスローガンに
医療と介護の情報提供を目的とし、情報交換・意見交換を通じて、連携強化、相互理解を図り、それぞれのスキルアップを目指しています。
運営する世話人は医師会・歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、介護事業所、訪問看護ステーション、区内
病院の地域連携室、区役所、新たに相談支援室から構成されています。

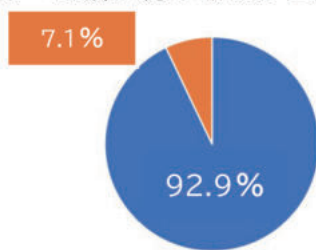
2 アンケート

ご協力いただいた皆様、有難うございました。

大阪市福島区における在宅医療・介護関係事業所の感染症対策、連携等の現状を把握することを目的にアンケート
調査を実施しました。対象事業所298カ所にアンケート調査を発送し、そのうち2021年2月19日～3月18日ま
でに回収された106件(回収率35.6%)の集計結果の一部をご紹介します。
詳細につきましてはホームページをご覧ください。

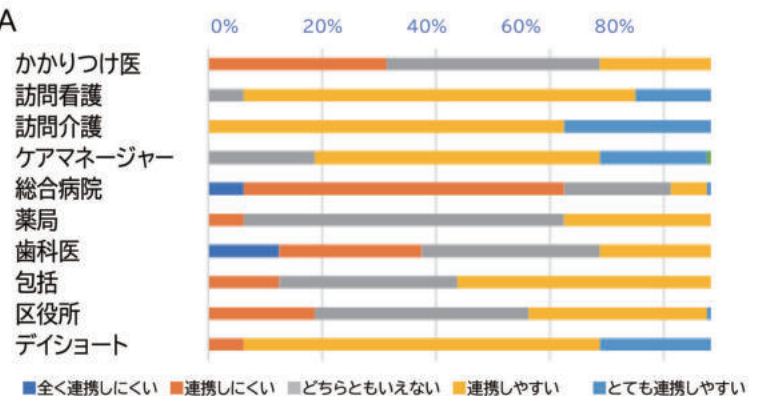
Q 新型コロナウイルス感染症(疑い含)及
び濃厚接触者への訪問(診察)時の感染
防護具対応について利用者(患者)の理
解は得られましたか?

A 92.9%が「理解が得られた」、7.1%
が「理解が得られなかった」と回答



Q 居宅介護において利用者にケアを提供する上で、各関係機関と
連携しやすかったですか?

A



●連携の中心となっているケアマネージャーは
医師との連携に困難さを感じている傾向がありました。



こちらからも詳細が
ご覧いただけます

福島区相談支援室 検索

- 相談支援室では様々なご相談を受けさせていただいています。
相談支援室への相談ケースや相談支援室の役割をご紹介します。

3 福島区相談ケースのご紹介

ケース1

●●病院地域連携室から
がん末期患者から自宅で過ごしたいと希望されているため受け入れて下さる開業医の先生を紹介してほしい。

ケース2

老々介護で認知症がある高齢者の訪問診療をして下さる開業医を紹介してほしい。

ケース3

看取り看護を受け入れてくれる訪問看護ステーションを紹介してほしい。



ケース4

ケアマネージャーから発熱を認める高齢者の医療機関の対応はどうすればよいのか。

ケース5

精神障害を有する療養者のかかりつけ医を紹介してほしい。

ケース6

本人の意思を尊重してくれるかかりつけ医を紹介してほしい。

ケース7

訪問歯科医院を教えてください。

ご相談内容は多種多様です。その方々の状況に沿った自宅や施設、病院での生活を支え、医療と介護の連携が円滑に進むようによりよい方法をご相談者と一緒に検討させていただいています。お電話やFAX、メールをご利用ください。状況により対面もご利用ください。対面の場合は先にご一報をお願いします。

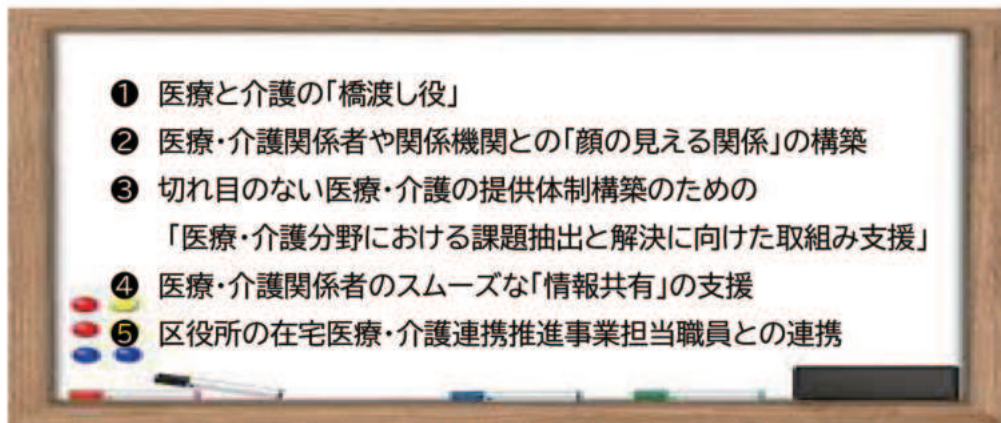
◆《相談支援室》へのご相談は FAX 相談シートをご利用ください。

- 他機関との医療・介護連携について
 - 患者さん、利用者さんとの調整について 等
- 送付先: FAX06-6461-1515 まで。担当者からお返事します。ともに考えましょう。



★電話番号ならびにメールアドレスは
表面上部をご覧ください。

4 相談支援室の役割



●● 相談支援室：コーディネーターからのご挨拶 ●●

塚本雅子(医師)

「顔の見える連携」が困難なら、オンラインでも！でも対面が一番いい！！
感染症・ACP・BCP・メンタルなど連携に関係なくても相談可能！経営・家庭不和は相談不可。

村尾景子(介護支援専門員)

コーディネーター2年目です。まだまだコロナも収まらず大変な状況ですが皆さんの声と繋がりを大切に活動したいと思っております。宜しくお願いします。

中村千賀(看護師)

医療・介護の連携についてお困りのこと等ございましたらお気軽にご相談ください。皆様と一緒に考えてまいります。宜しくお願いします。

原田俊子(看護師)

4月からCDとしてかかわらせて頂いております。顔が見える関係性を大切にしたいと思っております。お会いした時はよろしく申し上げます。